

SSKO

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

Grow up!!

栃木ダルク

ニュースレター 第61号(2008, 4, 11)

那須 TC の現状

那須 TC 長谷川貴則

那須では今月の初めに名残雪が降りましたが、その後は日を追うごとに暖かさをましていますが皆さんは如何お過ごしでしょうか。

さて今回は私の感じている事や施設の現状を書きたいと思います。

4月5月と外に出る事が多くなってきます。以前からプガムで行っているカホン（楽器）の評判が良く色々な所から参加を頼まれています。練習のときは嫌々やっている仲間たちも本番が近づくとつれて真剣みを帯びてきています。自分自身も何度か参加しましたが、大勢の人達の前で演奏をして尚且つ拍手を頂いたときには、やってよかったと思えることでしょう。

その他は雪があるうちは出来なかった畑作業、数年前から家族の方たちにご協力を頂いて敷地内でジャガイモやネギなど沢山の野菜を育てています。最初のうちはなかなか上手くいかず小さい野菜しか取れませんでした。最近で立派な野菜が育つようになってきています。

それと道路の整備があります。県道から施設に入ってくる道が舗装されていない為に一年に何度か補修工事？をしなければなりません。雪があるうちは隠れて分かりませんが雪が解けた今は凸凹だらで車も痛みます。

アスファルトにしたいのですが予算が無い為、スコップ片手に自分たちで修理しています。

話は変わりますが、こここのところプログラムを終了して自立していく仲間が増えていきます。私が入寮していた頃には考えられなかったことだと思えます。これも去年から行っている5ステージプログラムの成果だと思えます。

さて右にあるグラフは17年度と19年度の施設利用者の使用薬物のグラフです。

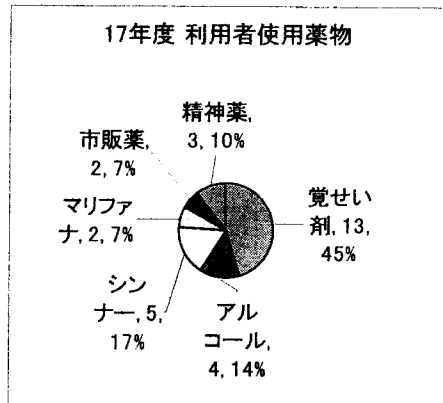
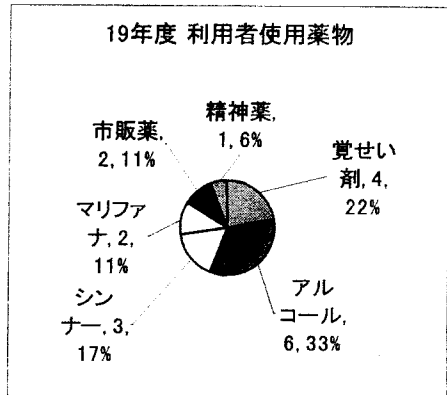
17年に比べて19年には覚せい剤が減ってきていて他の薬物使用が増えてきているのが分かります。以前私が施設に入寮した頃は覚せい剤チームとシンナーチームに分かれてソフトボールなどのプログラムを行っていたこともありました。逆に少しずつ増えてきているのがアルコール

依存の人達です。最近是非常に多くなってきていると感じます。

もう一つは年齢が上がってきてる事です。

18年度までは34.1歳でしたが19年度は41.25歳で平均年齢が7歳ぐらい上がってきています。それに伴い運動のプログラムの見直しなどが今後必要になってくるように感じています。

今後とも大勢の皆さんのご支援、ご協力をお願いいたします。



依存症のテツキチです。

昨年の4月にダルクに繋がってから一年が過ぎようとしています。その間2回施設をでました。1回目は自分の依存症を受け入れる事ができず、『僕はここにいる皆とは違う!』と言って出て行き、自分の力で自立しようと3カ月間必死に働きました。でも、長続きしなかった。意思や根性で回復できると思っていたけど、依存症をそのやり方で回復するのは困難だと気付くまで約一年の時間



と二度の施設の出入りが必要でした。思い返せばこれが最後と思った大麻を朝まで吸っていると認めたのが去年の今日、偶然にも（必然かも!？）今日この原稿を書いて

いる今日4月1日エイプリルフールでした。

大切でかけがえのない家族との絆を揺るがした僕の大麻問題は十年前に遡ります。大学時代を特に何をするでもなく彼女と遊んだり、旅行したりして過ごしていた自分。バイトもせず実家に帰っては父の財布やスーツのポケットからお金を拝借して、やりたい事をして過ごしていましたが、ドラッグなどは映画や小説、薬物事件など、どこか遠い世界の事ではかありませんでした。自由気ままに楽ばかりしてきた僕は結局、就職活動もせずに卒業したが働く気にもなれず、サーフボードを車に積み込みウロウロしていた。

しばらくすると、そんな生き方に行き詰まりを感じてきて、祖父の墓参りを機に実家の家業で仕事をする決心をしました。社長の“息子だから”と思われたくなくて、何年に1回の絶好の波が来ている日でもサーフィンをせず仕事に励み（当たり前の話ですが、...）3ヶ月が過ぎた頃から事務所（経営サイド）に入って仕事する事になった。そこで、“己に甘い自分”が出て来て楽をするようになった。

そんな時期に5年付き合った彼女にふられた。ひどく苦しみ落ち込み、悲しさが生活を支配した。仕事を始めて1年が経った頃、“このままの人生は嫌だ”と漠然と思い始めて、反対を押し切る形で振り切って辞めた。僕は東京の寮付きのパチンコ店で働いて、それまでの貯金と合わせて100万円近くお金を貯めた。

そして1998年10月、サーフボード一枚を持って一人でハワイに旅立った。自由気ままな僕とハワイの平和で穏やかな空気は、自分のそれまでの人生に対して持っていた閉塞感を吹っ飛ばしてくれた様な気がした。ハワイで出会った仲間と毎日レンタカーに乗り込み、数ある有名なサーフポイントでサーフィンする夢のような毎日に、彼女と別れた傷も癒されていった夢のような毎日、、、そして大麻に出会うのだが、、、、。HEMP（大麻）is ALOHAという格言があるように、ハワイでは大麻の精神文化が根付いていて、どこでも大麻が身近な環境だった。幾度となく誘われても「俺は今のままで充分」と言って別に興味も無かった。でも仲の良かった友達が日本に帰ってしまって、寂しさからか、毎日が充実しなくなってきた、誘われるがまま大麻を初めて吸った。26歳の常夏のハワイ。そしてばっちりハマった。“人生はなんて素晴らしいんだろう！”そんなふうにとんどん大麻を吸う自分を肯定していった。

日本に帰る頃には大麻を肯定する立派な依存症者になっていた。帰ったら戻るはずだった家業も放り投げ、身の回りの物を処分してお金を作り、10日後にはハワイに戻っていた。大麻を吸うために、、、、。2ヶ月の滞在中は朝から寝るまで毎日大麻を吸っていた。

立派な薬物依存症者になって日本に帰ってきたのは皮肉にも1999年の4月1日エイプリルフールだった。

実家には戻らず、ハワイで知り合った人に東京のアパートを貸してもらい、ちょこちょこ仕事して家賃を払い、たまに大麻を吸ったり、幻覚キノコなどで遊んでいた。家賃が払えなくなると、それまで大切にしていた高級腕時計で払った。

そんな超適当な暮しをしていてもまだ平静だったが、初めて吸った覚せい剤で一気に壊れた。“誰かが殺しに来る”、、、、そうなってからは大麻も他の薬物もしなかったけど、加速をつけて壊れていった。頭の中はぐしゃぐしゃになり、クレジットカードで現金40万円を引き出し海外に逃亡しようとしたり、、、そして壊れたまま逃げるように実家に帰った。

実家に帰っても、精神異常者になっていた僕は「お金が悪い！権力が悪い！だから高級車に乗っている父も兄も悪い」などと訳の分からぬ事をわめきちらし、車を壊したり、次の日には涙を流して謝ったり、完全に精神が壊れていた。その後散々な気違い行動を繰り返し、最終的には、店の金庫から500万円近い現金を盗みハワイに行った。

その時の僕は神であり自分が法律であり宇宙の中心だった。しでかした行動も気違いだった。飛行機のトイレで大麻を吸ったり、ポリスに至近距離で銃口を向けられたり、当然お金が無くなり浮浪者になって万引きしてつかまり留置されたり、、、

そんな僕を見かねた露店の韓国のおばさんが両親に連絡を取ってくれて日本に帰ることができた。

今でも鮮明に覚えているが、関西国際空港のゲートを出たときに見た家族の、悲しみと混乱の入り混じった顔を僕は忘れる事はないだろう、、、。

しかし帰ってきてても精神異常はそのままの状態、おかしい行動を繰り返した先にたどり着いたのは精神病院だった。極度の興奮と躁状態を強力な処方薬で落とした。

それから地獄の日々が数年続く。もちろん家族はそれ以上の地獄を見てきたのだが、、、29歳になっていた。それから大麻を求め続けた。大麻が合法化されているオランダにも行ったが誰と会っても会話すらできず、表情の無い顔。それでも大麻の事を肯定していたし、自分があんな壊れ方をしたのは大麻が原因でなく、覚せい剤だと思っていた。そんな頭の中が一杯一杯のなか、最初の精神性のでんかん発作を起こした。以後10回以上の発作を起こし、最終的には原付バイクで電柱に激突する事故を起こした。脳挫傷、粉碎骨折、、、33歳になっていた。

まさに生死を彷徨い、なんとか助かった。地獄の痛みにも必死に耐えながら6ヶ月のリハビリを終えて退院した頃には奇跡が起きていた。数年間続いた精神的苦しみは消えて健全だった頃の精神状態に戻っていた。家族もみんな明るく大喜びで、精神異常だった頃の話など昼食時の笑い話にすらなっていた。生きている、生かされていると思った。もう2度と苦しみの世界に戻りたくないと思底思った。絶対大丈夫と思っていたけど、、、、、、

偶然出会った同級生に大麻を勧められ、なんの抵抗もなく吸った。大麻だけは認めていたのかな、……。それも長続きせず、“俺は何をしているんだろう？”と泣きながら心の中で家族に詫びながら吸いきった最後の大麻。親の前では『もう2度と吸うわけない。』と笑い話にした表看板の裏で簡単に吸える自分がいた。無力で惨めだった。

自由気ままに生きてきて、かけがえのないものを傷つけ、たった一度の人生を幸せに生きる責任も放棄していた。そんな惨めな生き方をやめて、DARCを出発点にして新しい人生を歩む。最後に、……。父の言葉を思い出す。

「大麻がいかに良くて合法的であっても、大麻が無くても幸福に生きていけるのだから、そういう生き方をしてほしい。」今後はそんな生き方をしていきたいと思えます。

玄関にて全員集合



うそ臭い笑顔

4月予定

- 4月2日 黒羽刑務所覚醒剤教育
- 4日 喜連川社会復帰促進センター覚醒剤教育
- 5日 ハートピア喜連川さくら祭り参加
- 8日 アルコール関連問題研究会準備委員会
- 9日 黒羽刑務所覚醒剤教育
- 12日 宝積寺にてカホン演奏
- 13日 フェスタmy宇都宮2008参加
- 16日 黒羽刑務所覚醒剤教育
- 12日 ViVa 良さ来い！カホン演奏
- 20日 盲導犬ふれあいデー2008参加
- 27日 宇都宮家族会

3月献金を下さった方々

(株) ナスハウス工業様、青木けい子様、カリック那須教会ロ-ラ-ド・ピ-ル様
更生保護女性会西那須野地区会長阿部美智子様

匿名4名様

3月献品を下された方々

小原公二様、聖血礼拝修道院様、清水忠彦様、高橋美紀様

匿名5名様

編集

栃木DARC

宇都宮OP

那須TC

〒320-0014

〒329-3225

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14
形松ビル 3F

栃木県那須郡那須町豊原丙 3227-2

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597 TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

ホームページアドレス <http://www.t-darc.com>

Eメール:nesm@t-darc.com

発行所

郵便番号一五七-〇〇七三 東京都世田谷区砧六-二六-二二
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円